

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中小学校	校長	青木 真智子	生徒指導主事	中村 佳代子
取組事例名	『中学校区として取り組む府小のあいさつ運動』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
府中中学校区全体であいさつを主体的かつ意欲的に取り組もうとする態度を養うと共に、自分に自信をもって明るくあいさつをすることができる児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係形成…学級、学年、なかよし学年、そして学校全体へとコミュニケーション能力の形成を段階的に広めることができる。</li> <li>社会参画…学校内外でも主体的にあいさつをすることができる。</li> <li>自己実現…あいさつ運動を通して自分たちで設定した目標を達成しようとする事ができる。</li> </ul>



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
<p>1 府中中学校区で決めた「あいさつ」において、児童玄関、廊下や階段でのあいさつに取り組む。 (※本年度は、来年度中学校区共通のあいさつを目指すための第一次取組である。)</p> <p>2 生活委員会でのあいさつチャンピオンの取組 (6月)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>あいさつの3つのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自分から</li> <li>②相手の目を見て</li> <li>③元気な声で</li> </ul> </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="font-size: small;"> <p>あいさつチャンピオン</p> <p>あいさつは「笑顔や明るいあいさつ、大音量」において、相手から挨拶の返答を待たず、積極的にあいさつすることを目指す。また、あいさつチャンピオンは、自分からあいさつすることを目指す。これにより、あいさつ運動の推進を図る。また、あいさつチャンピオンは、自分からあいさつすることを目指す。これにより、あいさつ運動の推進を図る。</p> </div> </div> <p>児童会執行部が中心となって考えた4段階の取組を行った。</p> <p>① クラスボランティアと執行部のあいさつ活動 (11月) 「元気にあいさつをしよう」</p> <p>② あいさつのクラス目標を設定し、2週間取り組む。(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目の取組の課題からクラスで振り返り、クラス目標の設定</li> <li>・代表委員会で交流し、課題発見</li> </ul> <div style="text-align: right;"> </div> <p>③ たてわり学年でのあいさつボランティア (12月中旬)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相手の目を見て、大きな声であいさつしよう」</li> <li>・教員からのアドバイスも受けてさらなる改善へ</li> </ul> <p>④ たてわり学年で、あいさつする時間を増やして「おはようございます」と「こんにちは」のあいさつボランティア (2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日中元気なあいさつが広がる府小を目指して取り組む。</li> </ul> <p style="text-align: center;">中学校区での児童・生徒会議をオンラインで開き、成果を話し合った。各校からの取組から取り入れたいことを見つけ、自校に生かしていく。</p>	<p>児童にめあてをもたせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会執行部が企画した、段階的なあいさつ運動の実施を行った。</li> <li>・クラス目標の設定 (各クラスで課題発見し、目標に向けて取り組んだ。)</li> <li>・代表委員会を設け、交流し、学校全体で取り組んだ。</li> <li>・結果を放送で紹介した。</li> </ul> <div style="text-align: right;"> </div> <p>児童の意欲を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつする場所を増やすこと。</li> <li>・事前にボランティア募集したが、当日の参加も可能とした。</li> <li>・クラスからたてわり学年での取組にすることで高学年児童が低学年児童の手本となって声の大きさや態度を意識していた。</li> </ul> <div style="text-align: right;"> </div> <p>児童の頑張りを認め、価値付けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスでの取組結果と振り返りから、レベル5になったクラスにはあいさつ賞の進呈と全校放送で紹介した。</li> <li>・教職員からのアンケート (Form) を執行部に伝え、頑張りを価値づけした。</li> </ul> <div style="text-align: right;"> </div>



3 成果と課題
<p>○児童が自分たちで課題を見出し、段階的なあいさつ運動を計画・実施することができた。</p> <p>12月末のクラス会議 (③相手の目を見て大きな声であいさつしよう) の達成度は4.04 (5段階評価) であった。</p> <p>○定期的にあいさつ運動を実施することで、あいさつをする児童が増えた。</p> <p>○中学校区として共通して取り組みながらも、定期的に取り組む様子を情報交換することで、お互いの良さを生かしながら取り組むことができた。</p> <p>△朝以外の時間の「こんにちは」や、誰にでも自らあいさつをするという「100回会ったら100回あいさつ」ができていない。日常的にあいさつを交わせるようにすることを目標として、あいさつを広げていく。</p>